

会 議 録

1 会議名

平成27年度第3回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成27年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成27年5月13日（水）午後6時00分から午後7時27分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員： 増田和昭（会長）、青山恭造（副会長）、竹内明美（副会長）、
池田伸吾、泉 秀夫、伊藤邦雄、今井不二子、小林克美、佐藤光司、
田村利男、田村雅春、中澤武志、福島 弘、町屋隆之、丸山朝安、
三上正子（欠席1名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任

8 発言の内容

【関川センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【増田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：小林委員、佐藤委員に依頼
- ・議題【協議事項】平成27年度地域活動支援事業について、事務局に説明を求める。

【荒木係長】

資料No.1「平成27年度 直江津区地域活動支援事業提案書 受付一覧（担当課所見あり）」に基づき説明。

【増田会長】

「No.1 春日山節・棒体操保存会事業」に関して、採点するにあたり疑問点等がないか。

【田村雅春委員】

提案書の（4）事業内容及び実施方法の『5. PR方法』とあるが、そこに「チラシ、DVD・CD、ポスター」と書いてあり、PR方法がそれぞれ書かれているが、港町だけ地域名が出ているのには何か理由があるのだろうか。

【荒木係長】

田村雅春委員が言われるとおり、港町は区内の老人会の一つである。「港町」と具体的に書かれたのは、事前に港町から依頼を受けて活動することが決まっていたからである。

【町屋委員】

この事業は何年目か。

【荒木係長】

3年目である。

【町屋委員】

1年目にはDVDの作成があったと思う。今回、座ったまま出来るようにアレンジを加えることは良いことで、それで人が繋がれば考えているなと思った。ただ、「DVD着座タイプ」を100枚はどう使われるつもりなのか。

消耗品で棒を購入することはよいと思ったのだが、昨年と比べ補助金額が上がっている理由が着座タイプのDVD作成であると思うと、100枚のDVD作成は必要なのか。

【荒木係長】

小学校や老人会へのDVD送付枚数の詳細は確認していないが、基本的には講師がその場所に行って教えるということだが、その後に小学校等で自主的に行うとか、PRにつなげるということもあり、いろいろなところに普及していきたいという思いで作成と配布を考えていると思われる。

【増田会長】

他に意見等を求めるがなかったので終了とする。

次に、「No.2 クリーンナップ上越 i n 五智事業」について、疑問点等はないか。

【田村雅春委員】

「プリンターインク」は8個も必要なのだろうか。

【町屋委員】

たぶん、この事業はいつも子ども達にポスターを描いてもらって、それをラミネートして貼っていたと思う。インク8個というのは、黒インクではなくカラーの4色が2セットくらい必要ということではないか。100枚くらい刷れば1セットは使用すると思う。

【増田会長】

他に疑問等を求めるがなかったので終了とする。

次に、「No.3 直江津駅前環境美化推進事業」について、疑問点等はないか。

【町屋委員】

この団体の方々は、毎朝花に水やりをされているのか。

【荒木係長】

毎朝、活動されている。

【中澤委員】

花のプランターは今年の冬期間はどうしていたのか。

【荒木係長】

花のプランターは、冬期間の12月から3月末までを撤去としていたが、今冬は、雪も少なく北陸新幹線の開業ということもあり、その日に合わせ3月の途中ではあるが春の花を設置された。

【中澤委員】

花を飾らない時は、プランター等はどこに置いてあるのか。

【増田会長】

去年は、他の場所に保管していたという話があった。問題は去年の球根をどれだけ再利用されているかである。去年の質問の中では、「再利用出来る多年草を中心にやってください」と書いたのだが、去年の球根をどれくらい再利用するのか。聞いてみてもいいかと思われる。

他に疑問等を求めるがなかったので終了とする。

次に「No.3 『米作り体験』事業」について、疑問等を求めるがなかったので終了とす

る。

次に「No.4 福島城の顕彰事業」について、意見等はないか。

【田村雅春委員】

仮設資料館の管理については来年度以降の展望があるものか。また、市が積極的に福島城の資料館を建ててくれるような話があるものか。資料館となると、地域活動支援事業なのか、上越市の事業なのか悩むところではある。

【荒木係長】

展望については、現時点で具体的なものはないが、案としては古城小学校内に設置されていた元放課後児童クラブの設置場所(それ以前はデイホーム古城)が挙げられるが、維持管理費のこともあり、なかなか踏み込めないと聞いている。古城小学校近辺がPRするには良い場所だが、それ以外、例えば町内会館は場所から距離があるとのことで、事業を行う上で有効かどうか懸念されている状況である。

【町屋委員】

去年の協議会でも意見が出ているとおり、何年もレンタルで行けるものではないというのが委員の皆さんが思っていることだと思う。古城小学校で空いている部分を使おうと考えているならば、例えばその実現に向けて一旦この提案を取り下げて尽力してもよいくらい大事な事業だと思う。

【増田会長】

私たちとしては、ぜひ事業を進めてほしいと思うし、行政も積極的に関わってほしい気持ちがあるというのが皆の意見だと思う。

【泉委員】

これを機会に、我々協議会の立場としても行政へ強くアピールしてもいいのではないかと思っている。

【増田会長】

皆さんからそういう意見をいただいたので、方向的にはそうだろうと思われる。

他に疑問等を求めるがなかったので終了とする。

次に「No.6 五智公園の整備、有効活用支援事業」について、疑問等はないか。

本来から言えば公園管理者がすべきという感じもする。

【田村利男委員】

実際に公園を歩いたが、団体の方々は実に一生懸命やっておられる。私としては行政

の手が及ばないようなところの活動をぜひ支援してあげたいと考えている。

【田村雅春委員】

全体として私は良いと思う。問題は、例えば遊歩道の整備は市が行っているものであるから、この部分は区分けしたほうが良いと思う。整備自体には反対しないが、過去はどうされてきたのか疑問に思う部分がある。

【増田会長】

行政がやりたいと思っていることが出来ないから、活動団体の協力を得るという姿勢が見受けられない訳でもない。

【町屋委員】

提案書の添付資料に植物の紹介看板の写真がある。看板設置の有無の違いは大きいですが、例えばこの看板をカラーにするとか、写真付きにグレードアップするとか、行政がやるべき範疇ではないようなことに対して、地域活動支援事業で補助する価値はあると思う。この事業で難しいことは、行政がやるべきことと、地域活動支援事業で行われることの区別が分かりづらい。

【増田会長】

行政と活動団体との事業実施の区分けは、行政と団体が無し崩しではなく、お互いに確認し合って認識をしていればよいと思う。

【荒木係長】

活動団体は、担当課と話をしながら進めていると聞いている。

【増田会長】

活動に対し許可するということでは困る。

【荒木係長】

「協働」という形で進めている。

【増田会長】

資料の特記事項の行政の考え方を見ると、「協働」というイメージが読み取れない。

皆さんが懸念しているとおおり、お互い立場を明確にして、あやふやにしないようにしてほしいと思う。

次に「No.7 江戸時代の道標補修事業」について、疑問等を求めるがなかったので終了とする。

次に「No.8 直江津歌碑周辺整備事業」について、疑問等を求めるがなかったので終

了とする。

次に「No.9 佐渡寒ブリ祭り事業」について、疑問等を求めるがなかったので終了とする。

次に「No.10 《直江津から元気発信》事業」について、疑問等はあるか。

【町屋委員】

2点ある。1点目は、「釣り場開放」と提案書にあった。今、釣りに来る人が困って閉鎖されている場所を開けてほしいということだと思うが、それに対して皆さんはどう思われるか。

【泉委員】

最近勉強したばかりであるが、去年、柏崎港で大きな事故があって、その後、県として検証委員会を作り港の在り方について検証している。その検証の結果、本当に危険なことは除外して開放しようというのが県の方向であり、それを受けての話だと思われる。ただ、環境問題も検証して、環境保全についてもパトロール出来るようにNPOを立ち上げるのだと思われる。

【町屋委員】

提案書に「長野県へのアピールを強くしていく」と書かれていて、長野県の人に署名などをしてもらって「開放してください」と言う訳ではなく、例えば「環境保全を大事にしましょう」ということのアピールなのか。

【泉委員】

国土交通省のホームページを見るとそれについても分かる。

【町屋委員】

2点目は看板の件である。「年間2回の張替」とあるが、張り替えなければいけないのか。張り替えたものはまた使えるのか。提案書には仕様が書かれていない。ポスターのような紙なら剥がれてしまうし、年2回、イベントに応じて張り替えて捨てていたらもったいないのではないか。

【泉委員】

担当課（産業立地課）の所見で、「その辺は十分に考慮するように」と書かれてある。

【青山副会長】

全体を通して事務局に教えていただきたい。昨年の12月に開催した100kmマラソンの写真展の宣伝ポスターに「地域活動支援事業」の名前を入れなかったことで、実施

団体として謝罪したことがあった。他の区はどうなのか。例えば看板を作る際に「平成27年度地域活動支援事業で作りました」と入れてもらう決まりがあるのかどうか。

【荒木係長】

「地域活動支援事業で作りました」と入れてもらうようお願いをしている。物品によっては表示できないものもあるが、そういったものは、チラシ等で回覧して住民に周知してもらっている。

【青山副会長】

提案があった時は確実に話をさせていただきたい。

【荒木係長】

承知した。

【関川センター長】

事務局としては、イベント等事業実施の際に「アピールしてください」とお願いしている。

【小林委員】

No.4の米作り体験事業について、田んぼの中の看板に地域活動支援事業として実施していることを書いてはどうか。

【三上委員】

町内に話をしておく。

【泉委員】

全体の話で、1つ残念だと思っているのは、去年、直江津地区連合青年会が祇園祭をアピールするために花火を提案してきたが、今年は提案されていない。何か資金の目途がついているのか、少し心配している。

【中澤委員】

はっきりしたことは分からないが、提案が間に合わなかったと思われる。

【町屋委員】

団体の役員が毎年順番で変わるので、その年の役員の考え方もあると思う。

【泉委員】

そこで少し関心を持ってみたいと思うのは、提案No.10の「《直江津港から元気発信》事業」は祇園祭をアピールしている。もし、直江津地区連合青年会が提案するのであれば、その団体との整合性をきちんとして、お互いにプラスとなり相乗効果が出るように

働きかけいただきたいと思っている。

上越市の観光で一番良くないのは、それぞれ団体が点でリンクしていないこと。リンクすればもっと大きな効果があると思う。

【中澤委員】

それを誰かがリンクさせなければならない。

【町屋委員】

提案事業に関して言えば、大局的にはそうかもしれないが、それぞれ提案者の思いがあって提案してきていることを、他と事業内容が一緒だから他と一緒にやれないものかというのは、提案者に対しては言いづらいと思う。逆に、我々が複合的・包括的に新しい案を出すというなら別である。

【今井委員】

今、そういう話が出ているが、私は「まちづくり構想」の中で直江津、五智、港町も含めたまちづくり構想をしっかりとやったほうがいいと思う。

【増田会長】

泉委員の意見は、県外に情報発信するのなら、個々にやらないで一致団結してやったらどうかという話である。「まちづくりセンター」というのは地域協議会の事務局だけが役割ではなくて、地域振興として総合的に取り組むのが役割だと思うので、そこは事務局から町の皆さんが連携出来るような配慮をお願いしたいと思う。

直江津地区連合青年会に関しては、今年の役員もすごくやる気になっているので、期待出来ると思う。県外に情報発信しようとして一生懸命に考えて、祇園祭も一生懸命盛り上げようとしているようである。

【町屋委員】

昨年度の地域活動支援事業の実績報告書は大事であると思う。本年度も昨年からの継続事業が多いが、提案書に書かれたことが事業実施後、自分たちでどう思っているのか。自己満足で終わっていないか。次に事業結果を踏まえて来年度はどうするのか。そういうものが見て取れるか、審査の参考となるのが実績報告書だと思う。

【泉委員】

継続事業が結構多いので、先回の目的と今回の目的を見て比較している。先回の結果報告があるが、その結果を生かして今回このような目的でやるというものが見えない。それをぜひ参考にしたいと思う。それから、数字で出せるものは出してもらおうが分

かりやすい。その辺を工夫していただきたいと思った。

【田村雅春委員】

全体の話で、これまで何回か実施されてきた事業で、その団体の財産はきちんとチェックされているのか。結果がどうなのか。継続事業の場合、財産管理の報告を義務化してもいいのではないかと思うがどうか。

【荒木係長】

備品等は備品台帳を作って管理するようにお願いしている。

【田村雅春委員】

事務局としてチェックしているのか。

【荒木係長】

事務局としてはそこまでは管理していない。

【泉委員】

私も出来れば義務化したほうがいいと思う。

【三上委員】

私も備品としてきちんとチェックし、義務化する必要があると思う。

【町屋委員】

気になったのは事業PR用ジャンパーである。ジャンパーが備品かどうかというのが第一。ジャンパーを着終わったら回収し、クリーニングに出して次の方が着ているのであればよいのだが、個人の記念品みたいなものになっているならもったいない。今言ったようにそれが備品だと言うならきちんと管理すべきである。

もう1点、No.6の五智公園整備事業で購入する刈払機について、五智公園の草を刈るならレンタルよりは買ったほうがいいと思うが、きちんと管理をするということに対してそれを信じるしかない。

【増田会長】

刈払機については質問で出していきたい。他は「Q&A」の中には、「借りられるものは借りてください」と書いてある。

【泉委員】

刃物は借り物では駄目である。

【町屋委員】

買うなら買うでいいが、私たち協議会としては、団体にきちんとした取扱いを求めな

ければいけない。

【増田会長】

きちんと管理することは当たり前のことだが、今の刈払機に関しては、団体の考えを確認する意味で質問していただきたい。

備品管理の話だが、備品か消耗品かという論議があるが、管理基準については、事務局で検討していただきたい。

町屋委員が言われたように、継続の事業は、去年どうだったのかは提案書に書かれていないため、去年の報告書を見て検証しながら今年度提案の質問を考えていただくようお願いしたい。

【町屋委員】

丸山委員が草刈機の値段が高い、セットでもう少し安く買えるだろうと言っていたのだが、たぶんそれはお店が違ったり、必要な仕様が違ったり、同じ刈り払い機でもグレードがあつたりすると思うが、考えてみたら、昔は相見積もりを取って添付していた。金額がそんなに高い物じゃなくても、備品となるべきものに対しては、求めてもいいと思う。例えば町内にこういう業者さんがいて管理してくれるから、少し高くてもこっちにするというなら全然問題はない。

【増田会長】

10万円以上は2社以上の見積もりを取ると決まっている。

【町屋委員】

備品となるものに関しては、安くてもきちんと管理していただきたい。

【増田会長】

今後の検討課題とする。

【小林委員】

事務局で分かれば教えていただきたいのだが、「煎茶クラブ」とか「民謡こども教室」の提案が出ていないが、今年は事業実施しないということか。

【荒木係長】

今年は自主的に活動すると聞いている。

【小林委員】

活動はしているが、今年はあえて補助しなくてもいいということなのか。

【荒木係長】

そうである。

【増田会長】

- ・事務局から今後のスケジュールについて説明を求める。

【荒木係長】

- ・資料No.2「平成27年度地域活動支援事業 審査スケジュール（確定版）」
「平成27年度地域活動支援事業に係る採点について」に基づき説明

【増田会長】

応援メッセージや意見や感想は、質問票に入れて出してもらいたい。「特記事項」は採択の必要条件で、「これだけはしっかりとやってください」ということがあれば特記事項の欄に書く。特記事項の取扱いは、提案者に対して採択の条件として付けるか付けないかを協議して挙手にて決めたいと思う。

【町屋委員】

昨年、特記事項の扱いで結構揉めた。その時は、合格点を付けた時だけ特記事項を付記できるということだった。その辺が曖昧で、例えば今回の提案で言えば、ジャンパーや看板で、それに対して質問をして納得しなかった場合は、特記事項に書いた上で合格した時にのみ有効になる。

【増田会長】

特記事項を守ることを条件に「採択」という判断はない、ということである。

30点以上になったものは採択。なおかつ、その中で「これだけは認められない」というものがあつた時は特記事項の欄に書いていただき、「この特記事項は付記するか」を皆さんで協議して決めるということである。

次に、2次募集の日程について事務局から説明を求める。

【荒木係長】

- ・2次募集の期間：7月1日から15日ではどうかと提案
- ・6月15日号の広報上越に併せて協議会だよりを全戸配布し周知したい

【町屋委員】

採択するかしないかは別として、今、出ている補助希望額をベースとして募集を前倒しすることは出来ないのか。

【青山副会長】

1次募集の中で減額もあると思う。

【町屋委員】

減額があるということは、2次募集の額が多くなる。

【青山副会長】

提案者はいくら残っているかで提案するのではないか。

【町屋委員】

2次募集で時期的に夏のイベントに係る事業であれば、胆力のある人は、自己資金でもやると提案して来るが、採択されなかったら出来ないという団体は、怖くて手を挙げてこないのではないか。

【田村雅春委員】

確定ではないけれど、全体の額から今の提案額を引いて、予定残額を早めに出してもいいと思う。

【増田会長】

広報上越の発行に合わせて周知するためには、6月1日号の広報上越では間に合わないため、6月15日号の広報上越で協議会だよりを全戸配布するということである。

【泉委員】

今の話が1次募集と2次募集があって2次募集で提案した。お金がないという不安があるので、遡ってOKにする。それは、1次で出した人に対して不遜な態度である。

【町屋委員】

お金が有る無しではなくて、先ほど、間に合わないから2次で出すという話があった。そこに関して言えば、今のスケジュールでは出してこられない。

【増田会長】

私たちはそこまで考える必要がない。あくまで募集のスケジュールを考えるだけ、それ以上のことは考える必要がない。

【泉委員】

確認だが、1次募集で提案して、同じ団体が追加で2次募集に提案するのはよいのか。

【増田会長】

例えば1次募集で看板製作10枚を提案した、けど足りなかったから2次募集で再度提案するというのは駄目である。同じ団体でも違う事業内容で出すならOKである。これらは、事前にセンターに相談に来ると思うので、センターで指導していただきたい。

【中澤委員】

2次募集の期間はいつ頃か。

【荒木係長】

今のところ、7月1日～15日辺りで考えており、採択はお盆明けくらいの予定である。

【増田会長】

皆さんが心配しておられるように、2次募集の採択は極力時間短縮で行きたい。場合によっては、全体協議は省いて、即提案書を委員に配付してもらい、質問票を出すというやり方をして、なるべく早く結論を出したいと思っている。

それでは次に事務局よりその他の連絡事項を求める。

【荒木係長】

- ・次回協議会：6月1日（月）午後6時～
- ・次回以降の協議事項（地域活動支援事業について）・報告事項（施設使用料の減免基準の見直しについて、三の輪台いこいの広場の安全対策について）の予定について説明

【増田会長】

審査は採点結果を皆さんで確認するだけなので6月1日に全て行う。減免についても6月1日に間に合うように調整していただきたい。減免基準については当日資料ではなく、事前配布するようお願いしたい。三の輪台いこいの広場の件についても事前配布するようお願いしたい。当日は論点を絞ってしっかりと意見を聞いてもらう場にしたいと思っている。

他に連絡事項がないか確認。

【小林委員】

以前、新聞で和歌山県太地町のイルカの追い込み漁が駄目だと、それを止めなければ水族館協会を除名するという話題があったかと思うが、ほとんどの全国の水族博物館は太地町からイルカを購入しているようだが、上越市の新しい水族博物館も計画では、年中イルカが見られるとなっている。今ここで話をしても何も分からないかもしれないが、注意したほうがいいと思っている。水族博物館と動物園が同じ協会で、除名されると動物園が困ってしまう。動物園側は「イルカはもういいのではないか」という空気になっているようである。その辺を担当課はどう考えているのか。

【増田会長】

情報として伝えて、コメントをもらっておいていただきたい。

他に何かあるか。

【田村雅春委員】

三の輪台の件についてお聞きしたいのだが、担当課との協議の中で「星を見に来る人がいる」という話があったかと思うが、どのくらいの人が行くのか。例えば、市内の人が多いか、県外が多いのか。数字を把握しているかどうか。その人たちも入れなくなってしまうのは申し訳ないと思った。

【増田会長】

最終的には、メリット、デメリットを比較してどちらを取るかということである。その辺も伝えておいていただきたい。

【泉委員】

先ほど、継続事業の話で、先回はどのような目的で、結果を踏まえて今回はどのような目的になったのか。

【増田会長】

目的の変化、修正等を見たいということか。

【泉委員】

そうである。

【増田会長】

配付された資料を自分で確認して比較してほしいが、気持的には前回と今回の比較の一覧表があれば助かるが、対応は事務局に任せる。

今までは実績報告書等は紙ベースで提出してもらっているが、データベースでもらっておくと比較等の処理が安易なので検討していただきたい。

会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。